

# 特別支援教育における ICT 活用力育成を支援する授業実践 —教員養成課程学生を対象としたタブレット端末による AT の利用—

朝倉 諒 (10113001)

## 1. はじめに

近年、教育の情報化に伴い ICT の重要性が高まってきている。文部科学省 (2010) は、特別な支援を必要とする児童生徒に対しての ICT 活用の意義を示した。しかしながら、特別支援学校での ICT や AT (Assistive Technology: 福祉情報技術、支援技術) を導入した教育を実践できる指導者の不足が指摘されている (坂井 2014)。さらに、教員養成課程が設置されている大学での特別支援教育における ICT 活用についての授業は、実施率が 6 割であることや、タブレット端末のような最新の機器に関する授業が実施されていないことが示された (小林ら 2012)。

そこで、本研究では特別支援教育における教員養成課程学生を対象とした ICT 活用力向上のための授業を実践し、本実践の有用性を評価することを目的とした。また、本実践を設計するため、特別支援教育における ICT 活用の実態について調査した。

## 2. 特別支援教育における ICT 活用調査

N 特別支援学校の小学部教員 20 名を対象にアンケート調査を実施し、教育現場における ICT 活用についての実態把握を試みた。自由記述による「教科指導における ICT 活用の課題」、「自立活動における ICT 活用の課題」について各項目をカテゴリに分類し集計した。その結果、各項目とも「タブレット端末の活用」に関する課題が多く挙げられた。具体例としては、「肢体不自由のために子供がうまく使用できない」、「子供の状態に合わせた設定が難しい」など、子供の操作やタブレット端末の機器の設定に関する課題が挙げられた。したがって、障害の状態に合わせたタブレット端末の細かな設定や調整が、現場の教員にとって困難な場合があることが示された。

また、合計 30 日の期間 (平成 28 年 7 月～12 月)、N 特別支援学校において実地調査をした。タブレット端末は操作が直感的で、教師も子供も扱いやすいため、多く活用されていた。一方、障害の状態が多様であるために、教師は使用する度にタブレット端末を再設定、再調整する必要があった。また、タブレット端末を使用する直前に設定等の準備を慌てて行う教師の姿が観察された。その結果、タブレット端末の設定や調整でつまずき、授業に支障が出ることもあった。したがって、教師のタブレット端末における AT の理解を深める必要性が感じられた。

本調査で得られた知見から、タブレット端末の利用に関して、子供の状態に応じた細かな設定や調整の知識が必要とされていることが示された。したがって、タブレット端末活用の AT の利用を題材とした授業を実施することとした。

## 3. 授業実践・評価方法

本調査を基に特別支援教育における ICT 活用授業を実施した。調査対象は、特別支援学校教諭免許状を取得する大学 4 年生 16 名であった。授業内容は「特別支援教育における ICT 活用」に

ついての講義と「タブレット端末を活用した AT の利用」についての演習であった。本実践実施後に受講者を対象とした主観評価によるアンケート調査を実施した。また、自由記述によって得られた回答をカテゴリに分類し、集計した。

## 4. 結果・考察

「授業を通しての感想」における自由記述の主な回答を表 1 に示す。「授業に対する情意」に関して、アクセシビリティを初めて知ってよかった、勉強になったという意見が多く挙げられた。また、「意欲」に関して、他の ICT 機器について知りたい、実践にチャレンジしたい、という意見が挙げられた。結果から、本実践は有用性があり、ICT や AT に関する受講者の興味関心が高いことが示唆された。また、「どんな点で意義があったか」における自由記述の回答を表 2 に示す。結果から、受講者のタブレット端末活用への期待や、ICT 活用への不安の減少という意見が挙げられ、本実践が受講者にとって意義のある授業であったことが推察された。

表 1 授業を通しての感想

項目	回答数	具体例
授業に対する情意	15	・アクセシビリティを初めて知ってよかった ・アクセシビリティを知らず勉強になった
意欲	10	・他の ICT 機器についても知りたくなった ・実践にチャレンジしたい

表 2 どんな点で意義があったか

項目	回答数	具体例
タブレット端末活用への期待	5	・現場で活かしたい ・現場で実践してみたい
ICT 活用への不安減少	2	・ICT 活用への不安が少し取れた ・ICT の考え方が変わった

## 5. まとめ・今後の課題

本研究は大学での特別支援教育における教員養成課程学生を対象とした ICT 活用力向上のための授業を実施し、本実践の有用性を評価することを目的とした。その結果、将来、教員となる学生にとっては有用性があり、興味関心の高い授業であったことが示唆された。また、タブレット端末活用への期待や、ICT 活用への不安の減少が示されたことから、本実践が受講者にとって意義のある授業であったことが推察された。

今後の課題は、授業内容の検討や、本実践による特別支援教育における ICT 活用力の育成効果について検討することである。

## 参考文献

文部科学省, “教育の情報化に関する手引き,”  
[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/zyouhou/1259413.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/1259413.htm) (参照日 2017. 1. 30), 2010.

(指導教員 瀬戸崎 典夫: 初等教育講座)